



ソフトウェア アップグレード

[ソフトウェアアップグレード] オプションを使用すると、次のようなインストールとアップグレードを実行できます。

- **インストール/アップグレード:** アプリケーションソフトウェアのアップグレード、Cisco Unified CallManager ロケールインストーラとダイヤルプランのインストール、およびデバイスバック、電話機のファームウェアロード、その他の COP ファイルのアップロードとインストールをする場合に、このオプションを使用します。
- **TFTP サーバファイルのアップロード:** 電話機が使用するさまざまなデバイスファイルを TFTP サーバにアップロードする場合に、このオプションを使用します。アップロード可能な TFTP サーバファイルには、カスタム呼出音、コールバック トーン、および電話機の背景画像などがあります。

ソフトウェアのアップグレードとインストール

[ソフトウェアアップグレード] ウィンドウでは、ローカル ソースまたはリモート ソースから Cisco Unified Communications Operating System ソフトウェアをアップグレードできます。

問題が発生した場合は、ソフトウェア アップグレード プロセスでアップグレードを取り消すこともできます。アップグレード用のソフトウェアをアクティブでないパーティションにインストールし、システムを再起動して新しいバージョンのソフトウェアに切り替えます。このプロセスの実行中に、アップグレードされたソフトウェアがアクティブなパーティションになり、現在のソフトウェアがアクティブでないパーティションになります。設定情報は、アクティブなパーティションにあるアップグレードしたバージョンの方に自動的に移行されます。

何らかの理由でアップグレードを取り消す場合は、システムを再起動し、前のバージョンのソフトウェアがインストールされているアクティブでないパーティションに切り替えることができます。ただし、この場合、ソフトウェアのアップグレード以降に変更した設定情報は失われます。

Cisco Unified CallManager バージョン 5.0(4) 以降、CAPF では証明書とキーの管理に Certificate Manager Infrastructure が使用されています。このため、バージョン 5.0(4) にアップグレードすると、CAPF のキーと証明書は自動的に再作成されます。その後 CTL Client アプリケーションを再実行し、CTL ファイルをアップグレードする必要があります。Cisco Unified CallManager で CAPF を使用方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

ローカル ソースから

ローカル ディスク ドライブに挿入された CD または DVD からソフトウェアをインストールし、アップグレードプロセスを開始できます。



(注)

アップグレードプロセスを開始する前に、必ずシステム データのバックアップを行ってください。詳細については、『Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド』を参照してください。

CD または DVD からソフトウェアをインストールまたはアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 アップグレード ファイルをダウンロードする場合は、次の手順を実行して CD または DVD を作成します。

a. 必要なアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードします。



(注)

ファイルを unzip または untar しないでください。unzip または untar した場合、アップグレード ファイルをシステムが読み取れないおそれがあります。

b. アップグレード ファイルを書き込み可能な CD または DVD にコピーします。

ステップ 2 コピーした CD または DVD を、アップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに挿入します。



(注) アップグレードファイルによっては、サイズが大きいため CD に書き込みきれず、DVD が必要になる場合があります。

ステップ 3 [ソフトウェアアップグレード] > [インストール/アップグレード] を選択します。

ステップ 4 ソフトウェアのソース場所として、**DVD/CD** を選択します。

ステップ 5 パス ファイルを CD または DVD 上のサブディレクトリに焼いた場合は、そのパスを [ディレクトリ (Directory、署名付きまたは未署名のファイル)] フィールドに入力します。

ステップ 6 アップグレードプロセスを続行するには、[次へ] をクリックします。

ステップ 7 インストールするアップグレードバージョンを選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 8 次のウィンドウで、送信されるファイル名やメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。

ダウンロードが終了すると、[チェックサム (Checksum)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 このチェックサムの値と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。

**注意**

アップグレード ファイルの信頼性と安全性が保証されるためには、これら 2 つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサムの値が一致しない場合は、最新版のアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

ステップ 10 チェックサムが一致することを確認したら、[次へ] をクリックしてソフトウェア アップグレードを続行します。

[警告] ウィンドウに現在のソフトウェア バージョンとアップグレードするソフトウェア バージョンが表示されます。

ステップ 11 ソフトウェア アップグレードを続行するには、[次へ] をクリックします。

[インストール後のオプション] ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 アップグレード ソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするかどうかを選択します。

- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするには、[アップグレードされたパーティションをリブート] を選択します。
- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリブートするには、[アップグレード後にリブートしない] を選択します。

ステップ 13 [アップグレード] をクリックします。

[アップグレードステータス] ウィンドウが表示され、アップグレード ログが表示されます。

ステップ 14 インストールが完了したら、[終了] をクリックします。

ステップ 15 システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[再起動] > [バージョンの切り替え] を選択します。

[ソフトウェアバージョンの切り替え] ウィンドウが表示されます。

ステップ 16 ソフトウェア バージョンを切り替えてシステムを再起動するには、[バージョンの切り替え] をクリックします。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

リモート ソースから

ネットワーク ドライブまたはリモート サーバからソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。



(注)

アップグレードプロセスを開始する前に、必ずシステム データのバックアップを行ってください。詳細については、『*Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

手順

ステップ 1 [ソフトウェアアップグレード] > [インストール/アップグレード] を選択します。

ステップ 2 ソフトウェアのソース場所として、[リモートファイルシステム] を選択します。

ステップ 3 必要に応じて、ソフトウェア アップグレードのディレクトリ名を入力します。

アップグレードファイルが Linux または Unix サーバ上にある場合は、指定するディレクトリパスの先頭にスラッシュを入力する必要があります。たとえば、アップグレードファイルが patches ディレクトリにある場合は、/patches と入力する必要があります。アップグレードファイルが Windows サーバ上にある場合は、システム管理者が適切なディレクトリパスであることを確認します。

ステップ 4 下の表の説明に従って、必要なアップグレード情報を入力します。

フィールド	説明
リモート サーバ (Remote Server)	ファイルのダウンロード元のリモート サーバのホスト名または IP アドレス。
リモート ユーザ (Remote User)	リモート サーバに設定されているユーザの名前。
リモート パスワード (Remote Password)	リモート サーバのこのユーザに設定されているパスワード。
転送プロトコル (Transfer Protocol)	sftp または ftp を選択します。



(注) [リモートファイルシステム] を選択し、リモート サーバの設定フィールドを有効にする必要があります。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

システムが使用可能なアップグレードをチェックします。

ステップ 6 インストールするアップグレードまたはオプションを選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 7 次のウィンドウで、送信されるファイル名やメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。

ダウンロードが終了すると、[チェックサム (Checksum)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 このチェックサムの値と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。

**注意**

アップグレード ファイルの信頼性と安全性が保証されるためには、これら 2 つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサムの値が一致しない場合は、最新版のアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

ステップ 9 チェックサムが一致することを確認したら、[次へ] をクリックしてソフトウェア アップグレードを続行します。

[警告] ウィンドウに現在のソフトウェア バージョンとアップグレードするソフトウェア バージョンが表示されます。

ステップ 10 ソフトウェア アップグレードを続行するには、[次へ] をクリックします。

[インストール後のオプション] ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 アップグレード ソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的にリポートするかどうかを選択します。

- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを自動的にリポートするには、[アップグレードされたパーティションをリポート] を選択します。
- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリポートするには、[アップグレード後にリポートしない] を選択します。

ステップ 12 [アップグレード] をクリックします。

[アップグレードステータス] ウィンドウが表示され、アップグレード ログが表示されます。

ステップ 13 インストールが完了したら、[終了] をクリックします。

ステップ 14 システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[再起動] > [バージョンの切り替え] を選択します。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

ダイヤルプランのインストール

ダイヤルプランファイルは、この章の初めの方で説明したソフトウェアアップグレードのインストール方法と同じ手順を使用して、ローカルソースまたはリモートソースからインストールできます。この手順の詳細については、[P.7-2](#) の「ソフトウェアのアップグレードとインストール」を参照してください。

ダイヤルプランファイルをシステムにインストール後、Cisco Unified CallManager の管理ページにログインし、[コールルーティング] > [ダイヤルプランインストーラ] を選択して、ダイヤルプランのインストールを完了します。

ロケールのインストール

シスコは、ロケール固有のバージョンの Cisco Unified CallManager ロケール インストーラを www.cisco.com で提供しています。このロケール インストーラはシステム管理者がインストールするもので、これを使用すると、ユーザがサポートされているインターフェイスを使用するときに、選択した翻訳済みテキストまたはトーン（使用可能な場合）を表示/受信できます。

ユーザ ロケール

ユーザ ロケール ファイルは、電話機表示用の翻訳済みテキストとボイス プロンプト（使用可能な場合）、ユーザ アプリケーション、およびユーザが選択したロケールの Web ページを提供します。ユーザ専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

ネットワーク ロケール

ネットワーク ロケール ファイルは、国固有の電話機トーンやゲートウェイ トーン（使用可能な場合）を提供します。ネットワーク専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

1 つのロケール インストーラに複数のネットワーク ロケールが組み合わされている場合があります。



(注)

Cisco Media Convergence Server (MCS) またはシスコ承認の、顧客が提供するサーバは、複数のロケールをサポートできます。複数のロケール インストーラをインストールすることにより、ユーザは複数のロケールから選択できるようになります。

クラスタ内のすべてのサーバをリブートしないと、変更は有効になりません。クラスタ内のすべてのサーバへのインストールが終了するまで、サーバをリブートしないように強くお勧めします。通常の業務時間後にサーバをリブートして、コール処理の中断を最小限にとどめてください。

ロケールのインストール

ロケール ファイルは、この章の初めの方で説明したソフトウェア アップグレードのインストール方法と同じ手順を使用して、ローカル ソースまたはリモート ソースからインストールできます。この手順の詳細については、[P.7-2 の「ソフトウェアのアップグレードとインストール」](#)を参照してください。



(注)

新しくインストールしたロケールをアクティブにするには、サーバを再起動する必要があります。

インストールする必要があるロケール ファイルについては、[P.7-8 の「ロケール ファイル」](#)を参照してください。複数のロケールをインストールしてから、サーバを再起動できます。

ロケール ファイル

ロケールをインストールする場合、次のファイルを両方ともインストールする必要があります。

- ユーザ ロケール ファイル：特定の言語と国に関する言語情報が格納されています。ファイル名の表記は、次のとおりです。

`cm-locale-language-country-version.cop`

- 複合ネットワーク ロケール ファイル：すべての国に対応した、さまざまなネットワーク項目（電話機のトーン、アナウンサー、およびゲートウェイ トーンなど）の国固有のファイルが格納されています。複合ネットワーク ロケール ファイル名の表記は、次のとおりです。

`cm-locale-combinednetworklocale-version.cop`

エラー メッセージ

ロケール インストーラをアクティブ化するときに発生する可能性のあるエラー メッセージの説明については、表 7-1 を参照してください。エラーが発生した場合は、インストール ログにあるエラー メッセージを表示できます。

表 7-1 ロケール インストーラのエラー メッセージと説明

メッセージ	説明
[LOCALE] File not found: <language>_<country>_user_locale.csv, the user locale has not been added to the database.	データベースに追加するユーザ ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] File not found: <country>_network_locale.csv, the network locale has not been added to the database.	データベースに追加するネットワーク ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] CallManager CSV file installer installdb is not present or not executable	installdb と呼ばれる Cisco Unified CallManager アプリケーションが存在する必要があります。このアプリケーションは、CSV ファイルに格納されている情報を読み取り、この情報を適切に Cisco Unified CallManager データベースに適用します。このアプリケーションが見つからない場合、アプリケーションが Cisco Unified CallManager にインストールされていない（可能性は非常に低い）、削除された（可能性あり）、またはサーバに Cisco Unified CallManager がインストールされていない（可能性が最も高い）ことが考えられます。データベースに適切なレコードが格納されていないとロケールは機能しないため、ロケールのインストールは中止されます。

表 7-1 ロケール インストーラのエラー メッセージと説明 (続き)

メッセージ	説明
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maDialogs_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	このエラーは、システムがチェックサム ファイルの作成に失敗した場合に発生します。原因としては、Java 実行ファイルの /usr/local/thirdparty/java/j2sdk/jre/bin/java が存在しない、Java アーカイブ ファイルの /usr/local/cm/jar/cmutil.jar が存在しないか損傷している、Java クラスの com.cisco.ccm.util.Zipper が存在しないか損傷していることが考えられます。これらのエラーが発生した場合でも、ロケールは正常に機能します。ただし、Cisco Unified CallManager Assistant ではローカライズされた Cisco Unified CallManager Assistant ファイルの変更は検出されません。
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maMessages_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maGlobalUI_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt.Checksum.	
[LOCALE] Could not find /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt in order to update Unified CM Assistant locale information.	このエラーは、適切な場所にファイルが見つからない場合に発生します。原因としては、ビルドプロセスのエラーの可能性ががあります。
[LOCALE] Addition of <RPM-file-name> to the Cisco Unified CallManager database has failed!	このエラーは、ロケールのインストール時に発生した何らかの失敗が累積されたために発生し、終了条件を示しています。

Cisco Unified Communication 製品のサポート

Cisco Unified CallManager ロケール インストーラがサポートしている製品リストについては、次の URL から『Cisco IP Telephony Locale Installer for Cisco CallManager 5.1』を参照してください。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/callmgr-locale-51>

TFTP サーバファイルのアップロード

[TFTP サーバファイルのアップロード] オプションを使用すると、電話機が使用するさまざまなファイルをサーバにアップロードできます。アップロード可能なファイルには、カスタム呼出音、コールバック トーン、および背景画像などがあります。このオプションは、接続先の特定のサーバにのみファイルをアップロードするもので、クラスタ内の他のノードはアップグレードされません。

デフォルトでは、ファイルは **tftp** ディレクトリにアップロードされます。**tftp** ディレクトリのサブディレクトリにもファイルをアップロードできます。

クラスタ内に 2 台の Cisco TFTP サーバが設定されている場合、両方のサーバで次の手順を実行する必要があります。この手順を実行しても、ファイルがすべてのサーバに配信されるわけではなく、クラスタ内の 2 台の Cisco TFTP サーバにも配信されません。

TFTP サーバファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[ソフトウェアアップグレード] > [TFTP サーバファイルのアップロード] を選択します。

[TFTP サーバファイルのアップロード (TFTP Server File Upload)] ウィンドウが表示され、現在アップロードされているファイルの一覧が表示されます。

ステップ 2 ファイルをアップロードするには、[参照] をクリックし、アップロードするファイルを選択します。

ステップ 3 ファイルを **tftp** ディレクトリのサブディレクトリにアップロードするには、[ファイルがアップロードされる **tftp** ディレクトリのサブディレクトリ (Subdirectory of the **tftp** directory where file will be uploaded)] フィールドにサブディレクトリを入力します。

ステップ 4 アップロードを開始するには、[ファイルのアップロード] をクリックします。

ファイルのアップロードが成功すると、[ステータス (Status)] 領域に表示されます。

ステップ 5 ファイルをアップロードしたら、Cisco TFTP サービスを再起動します。



(注) 複数のファイルをアップロードする場合は、すべてのファイルをアップロードした後に Cisco TFTP サービスを 1 度だけ再起動してください。

サービスの再起動の詳細については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注) TFTP ディレクトリに存在するファイルを修正する場合は、CLI コマンドの **file list tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルを表示し、**file get tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルをコピーします。詳細については、付録 A 「コマンドライン インターフェイス」を参照してください。